

ISFJ Inter-university Seminar for the Future of Japan

ISFJ2020中間発表会 活動報告書

文責：八木 菜々子

【日時】

2020年9月27日(日)

【会場】

zoom(新型コロナウイルス感染症により)

【参加】

21 大学 26 分科会 94 チーム

【概要】

中間発表会は、参加者の皆様が、12月19日と12月20日に開催される政策フォーラムに向けて政策提言論文を執筆する過程であり、専門家であるコメンテーターの皆様から発表についてご意見をいただきます。そのご意見を参考に、より実現性が高く、かつ多角的な視点を含む政策提言論文にするための機会と位置付け開催いたしました。発表後に質問やコンサルティングの時間を設け、論文執筆の最終段階に向けて疑問点や不安点を解消する機会としました。

【企画内容】

参加者の皆様による20分間の発表を踏まえ、質疑応答と意見シートを記入する時間を10分間設け、その後コメンテーターの皆様から5分間または10分間のご講評をいただきました。なおコメンテーターの皆様には前もって、参加者の皆様に事前に提出いただいた中間論文を読んでいただき、論文中の論理破綻、事実誤認などの基本構成および発表の不備、論文と発表間の齟齬の有無について確認していただき、忌憚のないご指摘をお願いいたしました。

分科会内のすべての班が発表を終えた後、1班につき20分間、コメンテーターの方と個別に相談するコンサルティングタイム設け、参加者の皆様が抱えている疑問などにお答えいただき、論文や発表の向上に向けたアドバイスをいただきました。会の最後にはコメンテーターの皆様から総評をお一方10分ほどいただきました。

【責任者総評】

今回の中間発表会では、例年とは異なりオンライン形式での発表を行いました。発表内容

については、最終論文に向けてより深まったものになったように感じます。画面越しながらコメントーターの方々との活発な意見交換と議論が繰り広げられました。一方で参加者である学生の質問が少なかったようにも感じました。より良い政策提言を行うためには活発な議論や意見交換が不可欠です。そのためにも参加者の皆様が積極的な参加がしやすくなるよう運営委員共々努めて参ります。新型コロナウイルス感染症の影響下で今まで通りのイベントの提供が難しくなっております。その中でも例年に劣らず、円滑なイベント運営に努めるとともに、参加者の皆様の研究活動を様々な面からサポートすべく活動して参ります。